

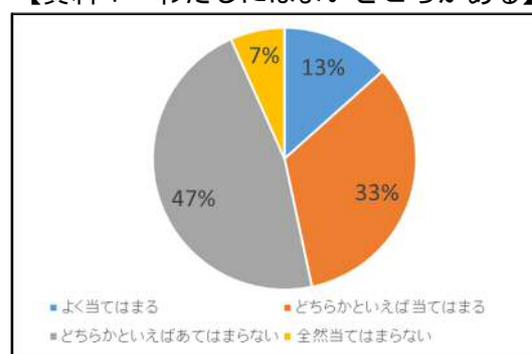
自分のよさを認められる生徒の育成 —家庭・地域との連携を図った教育活動を通して—

南知多町立豊浜中学校教諭 菊池 真志

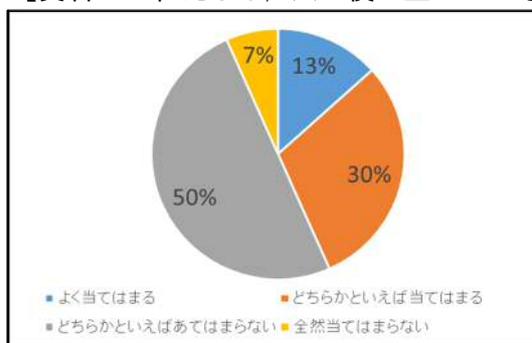
1 はじめに

本校は、知多半島の最南端である南知多町に位置し、全校生徒118人、5学級からなる小規模校である。本校から見える伊勢湾や緑豊かな山に囲まれた自然豊かな地域で、生徒たちはすこやかに育ち、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。地域や保護者の方々には幼少の頃から生徒たちの成長を見守ってきたため、生徒たちに気軽に声をかけたり、問題行動があると注意をしたりしている。本研究の対象生徒である平成26年度第1学年の生徒は、在籍31名であり、幼少の頃から固定化された人間関係で育ってきた。そのため、男女の仲がよく、学級の団結力は強い。また、頼まれた仕事や与えられた仕事に責任をもって取り組む生徒が多く、地域の行事に参加し積極的にボランティア活動を行う生徒もいる。しかし、生徒一人一人を見ると、リーダーとして活躍する生徒が限定しており、自主的に行動しようという気持ちがあっても、誰かに頼ってしまったり、正しいと思うことでも自信をもって行動したりすることに消極的な生徒も見られる。センターによる実態調査の結果では、「わたしにはよいところがある」「わたしは、人の役に立っている」の質問に対しては、否定的な回答が多かった（資料1・2）。これらのことから、日頃から積極的に協力していただける地域の人や生徒たちをよく知る保護者など、家庭・地域のよさを生かし、相互に連携を図りながら支援することで、自分のよさを認め、自信をもって行動することができる生徒を育てたいと思い実践を行った。

【資料1 わたしにはよいところがある】



【資料2 わたしは、人の役に立っている】



2 手だて

(1) 家庭との連携を図った道徳の授業の実施

保護者を交えた道徳の授業を実施し、学校と家庭の相互で生徒のよさを認める場を設定する。

(2) 地域の協力を得た福祉体験活動の実施

地域の方々との触れ合いを通して、生徒の自己有用感を高める体験活動を実施する。

3 実践の内容

(1) 家庭との連携を図った道徳の授業の実施

ア 保護者を交えた道徳の授業のねらい

共働きが多い地域であり、子どもたちが学校での様子を保護者に伝えたり、保護者が子どもから聞いたりする時間をとることが難しい。そこで、保護者と子どもが互いに考えたり、自由に意見を出し合ったりすることができる場を道徳の授業で設けた。授業を通して、保護者は自分の子どもだけではなく、他の子どもの発言や考えを聞いて、ふだん見ることがない子どもたちの姿や中学生としての成長を感じ取り、子どもたちのよさを認める機会になる。子どもたちも保護者から褒められる経験から自分のよさを再認識し、自分に自信がもてるのではないかと考えた。

【資料3 保護者用の資料】

イ 保護者への働きかけ

実践を行うに当たり、保護者が授業の目的や意見を出す場面を把握しやすいように、保護者用の資料を作成し、読み物資料とともに配付した（資料3）。これにより、保護者はあらかじめ資料を読み、考えをまとめたり、ふだんの子どもを思い出したりすることができると思った。グループ作りでは、自分の子ども以外の班に入り、他の子どもたちの様子を見てもらうようにした。

ウ 資料について

資料である「町内会デビュー」は、町内会の草刈り作業を母親から頼まれた主人公が最初は嫌々参加するが、周りのお年寄りたちから感謝されることで、自主的に作業をしようとする内容である。主人公の気持ちの変化を保護者と一緒に考えることにより、大人の考えに触れながら、生徒たちの自主・自律の精神を向上させられるのではないかと考えて資料を選定した。また、この授業を基に、福祉体験活動において、生徒一人一人が自ら進んで取り組める道徳的実践力を高められるのではないかと考えた。

道徳授業 資料「町内会デビュー」		保護者用（ ）	
生徒の様子から授業のねらいを考えました。 		生徒たちは、正しいことだと思ってもなかなか行動できる人は多くはありません。 本授業を通して、家庭や学校での自分たちの生活をふり返り、周りに褒められ、自分で考えて行動することの大切さに気付かせたいと考えています。	
＜授業の流れ＞			
内 容	保 護 者	生 徒	
1 家庭や学校での役割をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や学校での役割について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や家庭での役割について発表する。 	
2 登場人物の立場で自主的に行動することの大切さを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 「町内会デビュー」の資料を読んで、主人公（明くん）の気持ちを考える。 明がお母さんから仕事を譲られたときの気持ち、お母さんから認められたときの明の気持ち。 進んで仕事をした明の気持ちの変化を考え、グループで話し合う。 ワークシートに明の気持ちを書く。 グループで考えを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 明のお母さんからの仕事を譲られたときの気持ち、お母さんから認められたときの明の気持ち。 進んで仕事をした明の気持ちの変化を考え、グループで話し合う。 ワークシートに明の気持ちを書く。 グループで考えを発表する。 	
3 今までの生活をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> 今までに学校や家庭で、自分で決めて行動した経験を思い出して、発表します。 進んで勉強や身の回りのことをしたときの気持ちや考えを、自主的に行動することの大切さを感じさせ、今後の生活に生かしたいと思えます。 保護者の方は、家庭において子どもたちが進んで行動した経験を発表する。 なかなか行動できない生徒はこれからのやるべきことなどを発表する。 【例】勉強、部屋の掃除、手伝いなど。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や家庭で進んで行動した経験を発表する。 なかなか行動できない生徒はこれからのやるべきことなどを発表する。 自主的に行動できたときの気持ちを発表する。 	
4 教師の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の生徒たちの様子を見て、感じたことやこれからの生活について話をします。 		
感想			

- 1 実施日 平成26年11月6日（木）
- 2 主題名 自律心の向上 1－（3）自主、自律の精神
- 3 資料名 「町内会デビュー」
- 4 本時のねらい
町内会の草刈り作業に参加した主人公の気持ちの変化を通して、自主的に考え、行動しようとする道徳的判断力を高める。

エ 保護者を交えた道徳の授業の実践

日常生活で、やらなければならない役割について、学校と家庭での生活を基に振り返った。生徒は学校生活における学級や委員会の仕事について、保護者は家庭での生徒の役割について発表した。「あなたたちが学校や家でしなければならない役割はありますか」という発問に対して、生徒からは「学校では、放送委員会の昼の放送の仕事」「家では風呂の掃除」など、学校と家庭の両方における具体的な仕事や役割が出された。また、保護者には、ふだん生徒が行っている手伝いを話してもらい、「一生懸命がんばっている」「助かっている」など、生徒に対して感謝の気持ちを表す言葉が多く出された。この導入により、本資料の主人公が嫌々手伝う気持ちから、周りから褒められることで徐々にやる気が起き

る気持ちの変化を捉えやすくなった。

中心発問では、ワークシートを配付し、資料から読み取ることができる主人公の気持ちを大人と生徒の立場で考えるようにした。保護者を交えたグループ内で、生徒たちは自分たちの考えを伝えたり、保護者の考えを聞いたりして、考えを深めることができた（資料4）。

【資料4 中心発問と話し合いの様子】

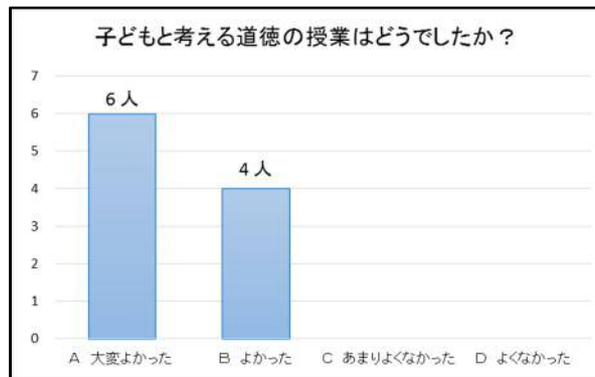
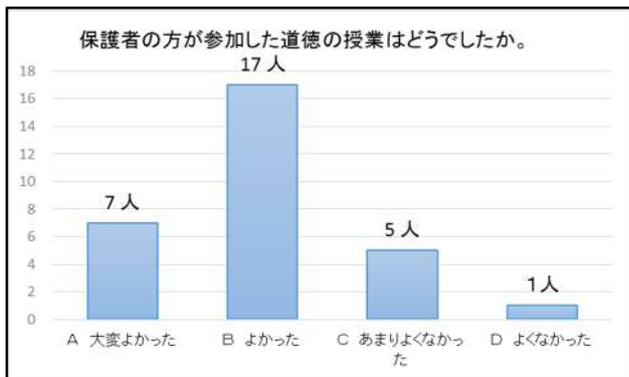
T:「主人公はなぜ『よし、やるか』と言って仕事をしたのでしょうか」
S:「お年寄りが一生懸命草刈りをして大変そうだったから」
S:「周りがお年寄りだけなので、若い自分が働かないのは恥ずかしかったから」
P:「最初は嫌々参加した主人公は、周りのお年寄りの方から感謝されることで徐々にやる気が出てきたのではないのでしょうか」
S:（うなづく）



オ 考察

参加した保護者10名が生徒のグループに入り、生徒とともに考え意見を出し合ったことで、生徒は考えが深まったり、保護者は幼少の頃から知っている生徒たちの成長を感じたりすることができた。最初は、授業の参加に戸惑っている保護者もいたが、グループでの話し合い活動の場面では、互いの意見を述べ合ううちに、積極的に意見を出す保護者の姿が見られた。生徒たちも真剣に保護者の考えを聞いたり、自分の考えを述べたりする姿が見られた。事後のアンケートから、生徒にとって保護者を交えての道徳の授業をよかったと思う回答が多く挙げられた。一方、保護者は参加者全員がよかったと回答しており、生徒たちの成長を感じ取るよい機会になったのではないかと考える（資料5・6）。

【資料5 事後アンケートの結果】



【資料6 生徒と保護者の感想】

【生徒の感想】

- 保護者の意見が聞けたのでよかった。大人としての考えを分かりやすく伝えてくれたのでよかった。
- いろいろな保護者の意見がたくさん聞いて自分の考えも変わってきたので楽しかった。
- 友達のお母さんの話をきいて、自分も進んで行動していこうと思いました。

【保護者の感想】

- 子どもとあまりふだん話をしなかったけど、この授業に参加して話すようになった。
- グループ内で話し合う際の個々の意見や伝え方など、教室全体では見えない様子が分かった。
- 子どもたちの心の成長が分かった。先生と子どもたちの日頃の様子が分かり安心した。

(2) 地域の協力を得た福祉体験活動の実施

ア 福祉実践教室

10月の福祉実践教室では、車椅子体験活動を行った。実際に体の不自由な講師の先生を招き、車椅子での生活についての話を聞いたり、実際に車椅子に乗る体験をしたりした。今まで講師の先生と打ち合わせをすることはあまりなかったが、社会福祉協議会の担当者も交え、生徒たちの自主性を向上させるための手だてを考え、講師の先生と協力して計画した。今回の実践教室では、二人の生徒が車椅子に乗っている人をサポートする状況を設定した。体験を通して、状況を考えながら、進んで手を差し伸べようとする気持ちを高めることもねらいとした。車椅子ではなかなか拾うことができない床に落ちている新聞紙を、二人のサポート役が進んで拾う姿や、段差を乗り越える際に「手伝おうか」と声をかけて手伝う姿が見られた。生徒たちは、サポート役を経験することで、体の不自由な人に対して正しい行動を自信もって行おうとする気持ちが高まったのではないかと考える（資料7）。



<車椅子体験の様子>

【資料7 福祉実践教室を終えた生徒の感想】

- 私は車椅子に乗って、こんなにも辛いとは思いませんでした。青木さんの気持ちを考えてみると大変そうで、私たちのように足が自由に動かすことができる人には分からないと思いました。この活動から少しでも協力できることはあると思うので、考えていきたいと思いました。
- 段差は自分で登ることができなくて人に手伝ってもらわないとできませんでした。青木さんは大変だと思います。私も車椅子の人など障害がある人たちを助けてあげたいです。「困っている人がいたら助けられる」そんな人になりたいです。
- 私の夢は介護士になることです。困っている人を手伝える、気づかうというところを今後増やしていきたいです。
- 日常生活の中で普通にもものがとれることが、車椅子では時間がかかり、誰かに手伝ってもらわないといけません。なので、車椅子の人がいたら助けたいと思いました。

イ 老人福祉施設訪問

12月の老人福祉施設訪問では、これまでに取り組んできた道徳の授業や福祉実践教室での経験を生かし、老人との交流体験を行った。生徒たちはグループになり、それぞれお年寄りと会話をしたり、遊びを通して触れ合ったりする方法を考えながら準備を進めた。

実際に訪問した際、会話を楽しむグループでは、お年寄りが聞こえるように声の大きさに気を付けたり、会話の内容をよく考え、昔の町の話や好きな歌などお年寄りが誰でも話せるように気づかたりする様子が見られた。また、遊びを楽しむグループでは、自分たちで作った紙芝居を行ったり、歌を歌ったりすることができた。最後に、生徒たち全員で歌を歌って、お年寄りを感動させることができた。生徒たちは、お年寄りから「すばらしい紙芝居だね。上手な歌だね。また来てね」と感謝され、一人一人が充実感と達成感を得ることができたのではないかと考える（資料8）。



<お年寄りとの交流の様子>

【資料8 老人福祉施設訪問を終えた生徒の感想】

- 同じことを何度も話さなければならなかった。コミュニケーションは考えていた以上に難しかったが、一緒になって遊んだり、笑ったりしていくなかで、だんだん自分も楽しんでいた。
- 紙芝居をしたら、お年寄りがとても喜んでいたので、紙芝居をプレゼントしました。ビンゴでは、お年寄りを手伝うことができました。とても面白かったです。
- 最初はなかなか話せなかったけど、手などをつかって説明したら、お年寄りに話を分かってもらえてうれしかった。

4 実践のまとめ

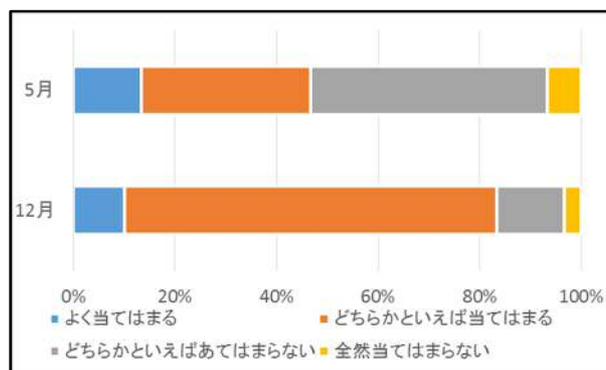
保護者を交えての道德の授業を通して、生徒は保護者と意見を述べ合うことで、自分の考えが深まったり、保護者が生徒に対する気持ちを理解したりできるようになった。保護者参加型の授業は、保護者にとっては生徒のよさを再発見し、生徒との関わりが更に深まるきっかけとなり、生徒にとっては保護者からよさを認められるきっかけとなったと言える。また、福祉体験活動を通して、生徒一人一人が相手のことを考えて行動する場面が多く見られた。ボランティア活動で定期的にお世話になっている地元の施設を訪問したこともあり、施設の方の受け入れ体勢が整っていたことや、豊浜ならではの親しみやすいお年寄りの協力が得られたことで、自信をもって行動することができた。

12月に調査したアンケート結果では、「わたしにはよいところがある」「わたしは、人の役に立っている」という質問に対して、8割の生徒が肯定的に回答し、5月の結果と比較しても肯定的な回答が増えたことが分かる（資料9・10）。ふだんの生活においても、積極的に自分の意見や考えを述べたり、相手を思いやりながら行動したりする生徒が多く見られるようになった。今回の実践は、自分のよさを認め、自信をもって行動することができる生徒を育成する上で、有効な手だてとなることが分かった。

5 おわりに

今回の実践は、日頃から本校の教育活動に協力的な保護者や地域の人々の支援があったからこそ成し遂げることができたと言える。学校・家庭・地域が一つとなり、教育活動が展開できるのも小規模校ならではのよさであり、豊浜の地域のよさでもあると実感した。今後は、この実践で得た生徒たちの成長が更に広がり、自信をもって行動ができる生徒たちが増えていくよう家庭・地域での生徒たちの姿を把握し、教育活動に生かしていく必要がある。家庭・地域との連携を更に深め、生徒の豊かな人間性の育成に向けて取り組んでいきたい。

【資料9 わたしにはよいところがある】



【資料10 わたしは、人の役に立っている】

